

対象	小学校高学年以上
教科	社会科・理科・総合
該当 単元	小学6年社会科 「世界の未来と 日本の役割」 ・ 環境問題の解決に 向けて 小学6年理科 「地球に生きる」 ・ 人と環境の関わり
教科書	東京書籍等
掲載日	2018.11.1. 朝刊 浜松・遠州版

馬塚丈司さんの説明を聞きながら顕微鏡をのぞく児童＝浜松市浜北区の北浜小で



身近な微小プラ関心

顕微鏡で観察 北浜小児童が環境考える

世界で問題化している微小な「マイクロプラスチック」について考える環境学習の授業が二十九日、浜松市浜北区の北浜小学校であった。五年生九十人が環境保護団体の代表から現状を教わり、顕微鏡で実物を観察した。

五ミリ以下のマイクロプラスチックは海に大量に存在し、表面に有害物質を吸着する性質を持つ。魚や塩、人の便からも見つかったという。

ウイル&ウイル環境プロジェクト（浜松市東区）の五明玲子代表は、川に漂う多量のペットボトルの写真を見せ、「日本人一人が一年間に出すごみは三百二十キロで世界最悪」と説明。「菓子を食べ終わったときも、空き箱が海に流れ出ないようにごみ箱に捨てて」と訴えた。

NPO法人サンクチュアリーエヌピーオー（同市南区）の馬塚丈司理事長は、ペットボトルやレジ袋を例に「死んだカメを解剖したら体内から三十六枚も出てきた。やがて人にも害が出てくる」と話し、水筒の利用を呼び掛けた。児童は馬塚さんが遠州灘で採取したマイクロプラスチックや砂を顕微鏡で観察し、理解を深めた。

（宮沢輝明）

問1：見出しの「微小プラ」という言葉は、正しくいうとなんというでしょう。

（ ）

問2：5ミリ以下の「微小プラ」は主にどこに存在し、どんな性質をもっていますか。

（ ）に存在。（ ）性質

問3：日本人1人が1年間に出すごみはどのくらいですか。約（ ）キロ

発展：「微細プラ」を減らすための

あなたの考えを書きましょう。

【活用にあたって】

「持続可能な社会の実現」という言葉をかなり前から耳にするようになっていきます。今年の猛暑や豪雨、台風被害などを通して、環境の変化を大人だけでなく子どもたちも実感したことでしょう。

記事には「微小プラ」が人の便からも見つかっていると書かれています。このことはテレビでもやっていましたが見ていなければ知らないままです。この記事を読んだとき、子どもたちはどう感じるでしょう。人は動物のようにプラごみを口にすることはありません。それなのに便から見つかる。知らないうちに人の口に入っているの？

感じる怖さや疑問から、学習への探求心が深まることでしょう。「食物連鎖」についても「微小プラ」を通して理解を深めることができると思います。

解答例

問 1 : 微小な「マイクロプラスチック」

問 2 : 海 ・ 表面に有害物質を吸着する

問 3 : 3 2 0

発展 : プラスチックに限らず、ごみを出さない工夫をすることやごみを分別することなど、まず自分ができることから考えられるとよい。